



学生が過ごしやすい居場所づくり

宮城県仙台第三高等学校 32班

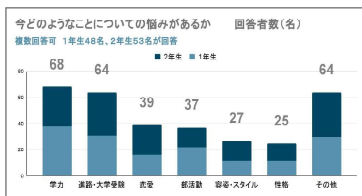
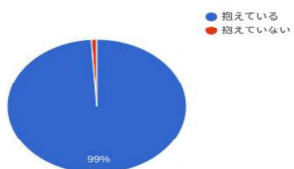


1 先行研究と目的

○先行研究

①仙台第三高等学校の59回生・60回生にアンケートを実施
(59回生53名、60回生50名、計103名)

悩みを抱えている人



※上のグラフはアンケート結果の一部を抜粋したものである。

以上の結果より、アンケート回答者101名のうち、悩みを抱えている人は
約99%であり、ほとんどの人が悩みを抱えていることが読み取れる。

▶悩みを周囲の人に相談するまでいかになくとも、各々 **悩みを抱えながら生きている**ことは明白である。

②仙台第三高等学校のスクールカウンセラーの方に対して、三
高生のスクールカウンセラー利用頻度や悩みを抱えている人との
接し方についてのインタビューの実施

※下はインタビューの一部を抜粋したものである。

①三高生のスクールカウンセラーの利用頻度は？

・月2回あるカウンセリングの予約はほぼ埋まっている

②悩みを緩和するためのコツとは？

・リフレッシュの仕方を確立する・**相談できる相手を見つける**

○目的

○先行研究のアンケート結果より、**約99%の学生が悩みを抱えて生きている**ことが分かる。また、スクールカウンセラーの方に対して行ったインタビューでは、悩みを解決するコツとして、**相談できる相手を見つけることが大切**であると分かった。

▶これらのことから、私たち探究32班の思いとしては、悩みを気軽に相談
できるような、当人にとって居心地の良い、家や学校とは違 **第二の
居場所を作りたい！**と考え、
このテーマで探究活動を進めることに決めた。

2 これまでの活動

①「居場所づくり」を行う場所の検討

○有識者の方からアドバイスをいただき、近年急速に発展している
メタバース上での新たな「居場所づくり」の取り組みを計画

利点・**直接対面しなくても**いろいろな人と交流ができる

- ・家でも参加できるため、参加の**ハードルが低い**
- ・最新の技術を楽しむことができる

▶普及率が低い・新たな導入が難しいなどの課題も生まれたが

メタバースプラットフォーム「Cluster」を利用して居場所づくりを行うこ
とに決定

2 これまでの活動

生まれた課題

②NPO法人み・らいず2様にインタビューを実施

③青少年全国ネットワーク学習会 こどもまんなかの
居場所づくりへの参加

※以下はインタビューや講演会の一部を抜粋したものである。

○居心地の良い居場所をつくるために必要なこととは？

- ・参加者が**主体的**に行うことができる活動内容を考えること
- ・自分の**意思や望み**などを伝えられるような環境づくりを意識すること
- ・一人ひとりの特性を見つけて受け入れ合い、**認め合う**こと

④イベント集客の為、各SNSを活用

(1)**Instagram**での活動

- ・探究32班の活動内容の公表
- ・イベント集客のための宣伝活動

(2)**LINEのオープンチャット**での活動

- ・探究32班の活動内容の公表
- ・イベント集客のための宣伝活動

・**オープンチャット参加者が自由に会話できる居場所の提供**

(3)**X(旧Twitter)**での活動

- ・イベント集客のための宣伝活動



オープンチャット



X(旧Twitter)



Instagram

4 まとめと反省点

○反省点

上記のイベントを行おうとしたが、参加者がおらず行えなかつた。

①企画に対しての**集客力**がなかった

- ・オープンチャットやInstagram、X(旧Twitter)を利用し集客を行なったが、どれも十分な集客を行うことが出来ず、イベントを開催できなかった。
- ・そもそものSNS上での知名度不足が課題。

②ターゲット層が参加したいと思えるような企 画でなかった

- ・何が求められているかをより考えることが必要。
- ・目的、期待できる効果などを明確に示すべき。

③他の団体が行っている取り組みとの**明確な 違い**がなかった

- ・オリジナリティに欠ける企画だった。

参考文献

<https://www.hus.ac.jp/hokukadai-iiten/detail/29c75895e4b747276c074b2b26efca8a42f4b1fa-17311/>
(北海道科学大学 メタバース利用のメリット)